

お知らせ

## 『中京大学英米文化・文学会 秋季大会特別講演会』

中京大学英米文化・文学会は、標記の講演会を、下記の通り、  
中京大学大学院国際英語学研究科英米文化学専攻と共催いたします。  
皆様のご来場をお待ちしております。

記

演題：『マーガレット・アトウッドが魅せる文学と環境』

講師： 佐藤アヤ子 明治学院大学特命教授

日時： 2017年12月19日(火) 13時10分～14時40分  
場所： 名古屋キャンパス 5号館 2階 523教室  
申込み： 不要（当日、直接会場にお越しください。）  
入場料： 無料

### 【講演内容】

カナダの著名な作家 Margaret Atwood は、次のような質問を昨今多くの読者から受けるという。「希望がありますか？」質問の意図はこうである。「私たちの地球に希望がありますか？人類の生命維持システム、つまり私たちが口にする食物や水、そして空気を提供する生物圏は大丈夫か」ということである。

アトウッドは時代が抱える問題やエトスを敏感に捉え、それを創作に生かす作家である。21世紀にはいるとアトウッドは、それまでのフェミニズム小説や歴史小説、心理小説から大きく転換して、関心を環境に向けている。その変化を「マッドアダム」の三部作である『オリクスとクレイク』(Oryx and Crake)、『洪水の年』(The Year of the Flood)そして、『マッドアダム』(MaddAddam)にみることができる。これらの作品は共に人類の存亡の危機で始まる近未来が舞台で、環境に関わる鋭い問題意識を込めた小説である。本日のレクチャーでは、この三部作を中心に、さらに最新作で、アトウッドの初めてのグラフィック小説である『エンジェル・キャットバード』(Angel Catbird)の三部作にも触れながら、なぜアトウッドが環境をテーマにした物語を創作したのかをお話ししたい。

佐藤アヤ子：明治学院大学特命教授、日本カナダ文学会会長、日本ペンクラブ常務理事  
カナダ文学・映画に関する著書・論文を多数発表。マーガレット・アトウッドの著作を含め、カナダの小説、戯曲を翻訳。

問合せ先：中京大学国際英語学部英語圏文化専攻アームストロング研究室内

Tel: 052-835-7378 / E-mail: [cjarms@lets.chukyo-u.ac.jp](mailto:cjarms@lets.chukyo-u.ac.jp)